

# どうする新役場庁舎



新年交礼会において、西江町長より役場庁舎建替えに前向きな発言があり、町内会の総会や新年会でも町長の考えが伝えられました。

議会では、これまで町長に対し一般質問等で役場庁舎建替えに向けた考えを問うてきましたが、その必要性は認識しているものの財源等の課題があり前向きな議論にはなっていないと見られます。

しかし、年末に国から熊本地震等による防災拠点である役場庁舎の被害による災害対策に対する危機感により「市町村役場機能緊急保全事業」による地方への有利な財政措置が行われることが発表されたことを受け、平成29年度町政執行方針や新年度一般会計予算において、役場庁舎の建替えに向けた事業が動き出しました。

議会としても、積極的に調査・研究していくために、3月22日の第1回定例会の最終日に「役場庁舎建設特別委員会」を設置しました。

役場庁舎建設基本構想(案)が示され、特別委員会での調査状況を報告します。

▼建替えなのか、それとも耐震補強・大規模改修なのか。

構想案では、耐用年数を考慮すると大規模改修したとしても10〜15年後に建替えが必要となる、狭隘なスペースの改善やバリアフリー化対応が困難、費用対効果などを考慮した結果、建替えの提案でした。

具体的な概算工事費の提示を求め、比較検討を行い建替えが妥当であり、市町村役場機能緊急保全事業が大規模改修には使えないことから特別委員会としても建替えを了承しました。また、情報公開を充分に行うよう町民説明会などの開催を促しました。

▼建設地はどこがベストなのか。

「現庁舎敷地」と「世代交流センター敷地」の2ヶ所を比較し、敷地面積の広さや代替施設費用等を考慮した現庁舎敷地の現庁舎の南側での建設の提案でした。



5月に行われた町民説明会

現庁舎の南側では、南側の大通りに近づきすぎて圧迫感があり、駐車場も北側になるなどの意見がありました。委員から更地で障害物もなく制約なく建設できる第三の候補地として、文化福祉センターの南にある中央公園の提案がありました。中央公園は都市公園のため、代替地の選定など都市公園条例の改正や都市計画マスタープランの変更が必要となります。

議会報告会での町民の皆さんの意見も参考に3ヶ所の候補地を比較検討した結果、「現庁舎敷地」が最適となりましたが、新庁舎を現庁舎の南側や3階建てに限定することなく、敷地全体を想定した最適な計画を検討するように申入れています。



平成27年に完成した岩内町役場新庁舎

▼基本計画、基本設計の発注はどうする。

基本構想を基に基本計画を策定します。策定の事業者選定は、競争入札、設計競技(コンペ)、技術提案(プロポーザル)方式のいずれかになります。

具体的な提案を求めるコンペ方式との意見もありましたが、より具体的な設計条件の提示が必要であり、設計案の変更が

できないといった事もあり、事業者の規模や事業に相応しい事業者なのかを考慮するプロポーザル方式で合意しました。

但し、技術提案書のプレゼンテーションを公開で行うことを条件に選考過程の透明性を求めました。また、計画策定の段階で事業者との共同作業を十分に行い様々な意見の検討を行うことが期待されます。

▼財政の見通しを確かめる。

国による有利な財政措置があるとしても将来的な財政見通しが重要です。統合保育所や観光中核施設の建設のほか現在進めているひらふ高原地域活性化事業や目前に迫っている新幹線周辺安駅周辺整備事業など大型事業が目白押しです。

委員が要求した平成42年度までの財政シミュレーションでは、公債費のピークは35年度となつていきます。実質公債費比率は、27年度決算で7.9%まで減少しましたが、36年度に12.5%に上昇と予想しています。将来負担比率も32年度に175.8%がピークとしており、それぞれ16%、20.0%未満の維持を目標としていました。

▼基本方針や基本機能を考える。

新庁舎の基本理念である「人と環境にやさしく、町民に開かれた、町民参加と協働による『まちづくりの拠点』」に基づい

た4つの基本方針は、①すべての人が利用しやすい庁舎

②防災拠点となる強い庁舎

③機能的で柔軟性のある庁舎

④人と環境にやさしい庁舎

特別委員会ではこの基本理念・方針に沿って新庁舎のあり方を先進事例などを参考に調査・研究してまいります。

岩内町の新しい新庁舎整備方針も本町とほぼ同じでした。南側に広い駐車場があり、バリアフリーや安全性に配慮した配置となっていました。1階は町民への窓口機能を集約しており、併設している保健センターも広い待合スペースやキッズスペース、授乳室、個別相談スペースが配置されていました。案内サインは、専門会社に発注しており目立つて分かりやすい表示でした。保健センターの検診室は、災害時の避難所にも利用



岩内町役場新庁舎を視察

することでした。ファイリングシステムを取り入れた執務空間は、整然としたオフィスエリアとなっていました。また、町長室に隣接している会議室も可動間仕切りでフレキシブルな使用が可能となっており、災害時には災害対策本部として利用されます。

今後、報告会での町民の意見にもあった図書館を併設した役場庁舎など様々な声も参考に調査していくこととなります。